

新型の宇宙飛行実験機「PDAS-X06」を公開

誰もが宇宙へ行ける時代を目指して

PDエアロスペース株式会社

平成19年5月に設立。本社は名古屋市緑区で、開発拠点が碧南市港本町にある。

コンセプトは、使い捨てではなく再利用できる機体、打ち上げではなく航空機スタイルでの離着陸、燃焼モードを切り替えることで単一の機体エンジンで飛行できることを掲げており、また、打ち上げコストの削減を図っている。



△左から牧社長、緒川社長、藤田常務、瀬戸田市長

ふるさと起業家支援プロジェクトのお礼の品として活用される絵画40点が贈呈されたほか、第三銀行の藤田隆弘常務から碧海総合研究所との取引手数料の一部が、ふるさと起業家支援プロジェクトへの寄附金として市に寄贈されました。

新型実験機の公開当日には、碧海総合研究所の牧茂史社長から、

碧南市は平成29年9月に、PDエアロスペース(株)と包括連携協定を締結し、産業振興や次世代育成などで連携しているほか、現在、ふるさと応援寄附金制度の一つである、ふるさと起業家支援プロジェクトを活用して応援しています。

緒川修治社長は「庶民の宇宙旅行を実現するまで頑張りたい」と意気込みを話しました。

順調に実験が進むと、令和2年末には新型エンジンを搭載した無人の実験機が高度100kmの宇宙空間に達する予定です。

市内に宇宙飛行機の開発拠点を置いているPDエアロスペース(株)が、1月15日(水)に新型の実験機「PDAS-X06」を公開しました。この宇宙飛行機に搭載するエンジンは、新しい技術を採用した「燃焼モード切替エンジン」で、酸素のある高度15kmまではジェットエンジンとして機能し、それ以上の酸素が薄くなる高度ではロケットエンジンとして機能する世界初のエンジンです。